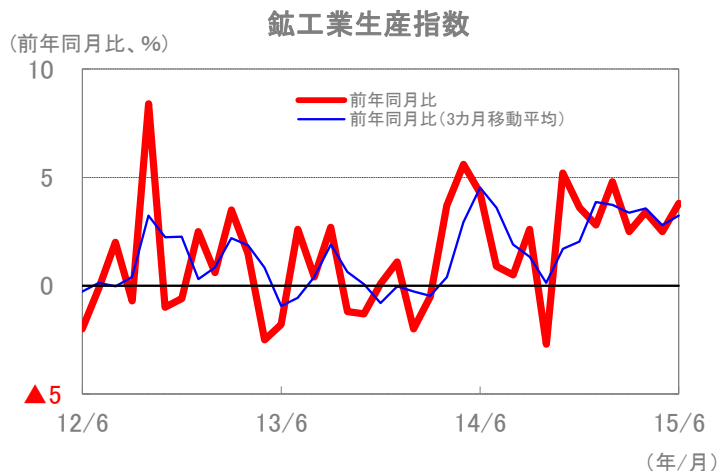


今日のトピック 最近の指標から見るインド経済(2015年8月) 利下げが景気を下支え

ポイント1 生産は堅調

利下げが内需を下支え

- 6月の鉱工業生産指数は前年同月比+3.8%と、今年に入り3%前後の拡大基調が続いています。一方、輸出は昨年12月以降マイナスが続き(7月は同▲10.3%)、内需が生産を支えている形です。
- 7月の製造業PMI(購買担当者指数)は52.7と、前月の51.3から上昇しました。インド準備銀行(中央銀行、RBI)の利下げが内需を下支えし、生産は堅調さが続きそうです。

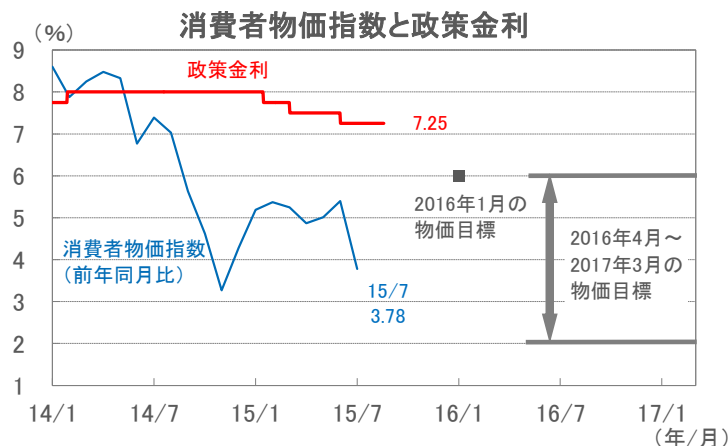


(注) データは2012年6月～2015年6月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価上昇率が大きく低下

9月の利下げ観測が強まる

- 7月の消費者物価指数は前年同月比+3.78%となり、3カ月ぶりに伸び率が前の月(6月は同+5.40%)を下回りました。食品(全体の約39%)が同+2.15%と低い伸びとなったことが主因です。
- 8月4日の会合でRBIは、政策金利(レポ金利)を7.25%に据え置きました。7月に物価上昇率が大きく低下したことを受け、市場では次回9月29日の会合で利下げを行う観測が強まっています。
- ただし、足元では米国の利上げ観測などからインドルピーを含む新興国通貨が下落傾向にあります。早ければ9月16日から17日の連邦公開市場委員会(FOMC)で利上げが決定されるとの見方もあり、RBIは投資資金の動きなどにも注意を払いながら利下げを検討すると思われます。



(注) 政策金利は、2014年1月1日～2015年8月19日。
消費者物価指数は2014年1月～2015年7月。
(出所) Bloomberg L.P.、インド準備銀行(RBI)のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 モディノミクス停滞が懸念されるものの、利下げが景気の下支えに

- モディ政権の構造改革の目玉とされる財・サービス税(GST)法案は、国会の空転により審議が難航しています。野党はGST導入による税制の簡素化には大筋賛成であり、法案成立は時間の問題との見方もありますが、政府が予定している来年4月のGST導入は難しくなりつつあります。

- モディノミクスの停滞は、構造改革による景気へのプラス期待が薄らぐ要因として懸念されます。一方、物価が落ち着いていることから、RBIによる利下げが景気の下支えとして期待され、景気は堅調さを持続できそうです。

ここも チェック!

2015年08月18日 インドの「構造改革」に急ブレーキ(インド)
2015年08月05日 インド中銀、政策金利を据え置き

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。